

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170101036
法人名	有限会社 介援隊
事業所名	グループホーム 愛らんど
所在地	佐賀市蓮池町大字小松843番地2 (電話) 0952-97-1318

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年2月26日	評価確定日	平成 20年3月20日

## 【情報提供票より】(平成20年2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	10 人, 非常勤 0 人, 常勤換 9.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.13 歳	最低	79 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	往診のグリーンクリニック・神田胃腸科内科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀平野を一望に見渡せ、四季折々のさまざまな風景を眺めながら、目の前にある佐賀江川の川の流れのように、ゆったりと落ち着いた生活をされているホームである。県外のホームを見学して回り、構想から開設まで3年の期間を費やしたと言われるほど、建物に配慮をされている。全館床暖房、居室は全室南向きで、窓はサッシに障子、出入口には格子を配する心遣いをされている。共有部分にはゆったりとした空間を確保し、畳の部屋に掘りごたつを設置してある。職員の配置に余裕があり、准看護師の資格を持つ職員を4名配置してある。管理者の方が「いずれは自分が入るホームを考えて作りました。」と話されたことが印象的である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設後初めての自己評価をおこない、全員で評価を活かして、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、ホーム開設後1回開催し、家族、民生委員、老人会、包括支援センターの職員の参加を得る。運営推進会議の開催意義を理解して、会議の開催方法や日程について中部広域連合に相談し、なるべく多くの方に参加してもらうように検討されている。今後は、定期的な運営推進会議の開催と会議録等の整備を行い、そこでの意見等をサービスの質の向上に活かしていくことを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱を設置し、入居者、家族とは常にコミュニケーションをとり、要望を聞きながら具体的な改善に努めている。弁護士を外部との相談役として配置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活における地域との連携の重要性を理解して、地域との付き合いを積極的に行っている。今後も地域の方との付き合いを大切にし、ホームの入居者と共に、地域の一員としてさまざまな地域活動を行っていくことを期待する。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのかかわりを大切に考えながら、「和気あいあいと楽しく暮らせるグループホームを目指そう。」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝の申し送り時に理念を唱和し、会議の時には、立ち上げの時の理念についてよく話をするなど理念の実践に向けて日々取り組んでいる。また、理念は利用者や家族の目に付きやすい玄関に掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所との付き合いを大切にし、散歩のときにごみ拾いを行っている。開設して2年が経過したばかりで、これから自治会の草取りや町民体育大会などに参加していく予定である。	○	開設して2年が経過し、今後自治会や町の行事への参加を予定されている。地域の一員としてさまざまな地域活動を行っていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームに関わる全員が、自己評価に真剣に取り組むよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をグループホーム開設後1回開催し、家族、民生委員、老人会、包括支援センターの職員の参加を得る。また、運営推進会議の開催方法や日程について中部広域連合に相談し、なるべく多くの方に参加してもらうように検討している。	○	定期的な運営推進会議の開催と会議録等の整備を行い、そこでの意見等をサービスの質の向上に活かしていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設後まもないため、市や中部広域連合にいろいろな相談を行いながら、入居者のサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が頻繁にあり、入居者の暮らしぶりや健康状態について話をしている。また緊急時は、そのつど連絡や相談を行っている。毎月の利用請求書には、本人の様子を伝える文面を添えて家族に送付している。今後は、「愛らんどたより」を出して、家族との連絡を密にしていく予定である。	○	家族との信頼関係を作っていくためには、定期的な報告は不可欠である。また、報告内容を記録として残していくことは、事業所の振り返りにも役に立つ。予定されている「愛らんどたより」の早期の発行を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情箱が設置されている。また、入居者、家族とは常にコミュニケーションをとり、要望を聞いている。弁護士を外部との相談役として配置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりはあったが、なるべく入居者に不安を与えないように配慮している。通院等で職員数が減少しないように、ゆとりのある職員配置となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の意義を理解し、積極的に取り組んでいる。全国グループホーム協会の研修は3名が終了し、今後も研修を予定している。毎月おこなっている勉強会でも研修等を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	立ち上げのときに見学したグループホーム、ケアハウスとの交流や医療福祉関係者との異業種交流会にも積極的に参加し、ネットワークづくりを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、家族等より本人の状態を聞き取り、見学をしてもらっている。入居時は本人が不安にならないように、入居者と寄り添う支援をしながら、家族との連携を図り不安を和らげるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事活動等を通して、入居者と職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から、希望される暮らしを聞き取っている。毎朝本人の様子を伺いながら「自分が当事者だったら。」という思いを持って、生きる喜びを引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れて、介護計画を立てている。入居者のケア状況は、一ヶ月ごとにまとめられ整備されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に勉強会や職員会議で検討され見直されている。特別な変化があれば、そのつど検討が行われ、入居者に適したサービスを提供するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や買い物のための外出等、入居者や家族の状況に合わせた柔軟なサービスを提供する体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医がいれば、その方に頼むようにしている。往診専門医や地域病院との契約により、適切な医療が受けられるようにしている。毎日主治医にバイタルを電話で報告し、指示を仰ぐケースにも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の「看取りの指針」について、家族と契約をおこなっている。かかりつけ医と連携を取って、ターミナルケアを行う予定である。入居者、家族の望む最期を迎えてもらうよう、家族と共に力をあわせてケアしていく姿勢で臨んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	虐待についての勉強会をおこない、職員全員が入居者の誇りやプライバシーを守ることに努めている。個人情報の取り扱いについては、事務所に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて食事時間や入浴時間を考慮し、希望に沿って支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて、入居者と職員は一緒になって調理や配膳、片づけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に合わせて入浴を行っている。希望者には、夜の時間帯での入浴支援も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの能力に合わせて、役割を持ってもらっている。入居者の趣味や嗜好に配慮して楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援のほかに、各季節の楽しみに合わせた外出や、家族の希望にも応じた外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や各居室のベランダから外に出ることができる。鍵をかけないケアを徹底し、開放的な空間を提供している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の計画や緊急時のマニュアルはあるが、訓練は実施されていない。	○	地域住民や民生委員等、近隣の消防署の協力を得て、計画されている避難訓練の早急の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの健康管理表を作成し、血圧や食事、水分補給等について毎日チェックしている。入居者一人ひとりの状態に合わせた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館床暖房で、居室、共有部分はもちろん浴室や洗濯場まで暖房が行き届いている。空気の乾燥もなく足元からの暖かさは快適である。トイレは3ヵ所設置され車椅子専用もある。介護用のトイレが脱衣室に設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着くように、なるべく入居前に使用していた物を持ってきてもらうようにしている。職員は入居者の状況に合わせて、居室に本人宛のはがき等を貼ったりして、居心地のいい空間を創るよう配慮している。		